研修で
学校が
変わる

学校不適応対策研修①まとめ

令和元年５月１０日（金）国府町コミュニティセンター

「CO教員の役割と校内体制づくり」

講師　野田　正人　氏（立命館大学　教授）

【研修のねらい】
■教育相談コーディネーター（ＣＯ教員）の役割を理解し、校内外の連携を図りながら、学校不適応解消（未然防止）の推進に活かす。

【ＣＯ教員の役割】

組織的な連携・支援体制の構築維持

・児童生徒の状況や学校外の関係機関との役割分担
・ＳＣやＳＳＷの役割を理解（SC・SSWは教職員）
・スクリーニングによる未然防止
・初動段階でのアセスメントや情報伝達

⇩

・欠席については複数の教員で早期にその理由を明らかにする（できれば　ＳＣ　ＳＳＷと）
・正確な情報に基づいて分析する（アセスメント）
・アセスメント対象のスクリーニング（トリアージ）
・アセスメントに基づいたチーム支援を行う
教員の指導力と組織的支援の複合的支援の組織化

【学校が取り組むチーム支援のモデル】

・仕分け　➡トリアージ　スクリーニング
　保護者・本人からの要望　会議と合議　リスト化
・見立て　➡アセスメント
　子ども・保護者面接　学校の保有情報の確認
・手立て　➡プランニング
　学校内外の役割分担　SC　SSW

【アセスメントシートとケース会議】

◆アセスメントに必要な情報　ＢＰＳモデル
・Ⓑ（生物）　病気や障がい　発達　薬物依存等
・Ⓟ（心理）　理解力　ストレス　行動傾向
・Ⓢ（社会）　家庭環境　学校やクラス　部活・友人
◆アセスメントシートを利用したケース会議
・情報を出し合う
・課題の仕組み・理由を明らかにする
・アセスメント結果に基づいた対応策を明らかにする
◆特に発達障がいと虐待は見過ごさない

【個人情報をどう扱うか？】

・個人情報は使うためのもの
・正しい活用と管理

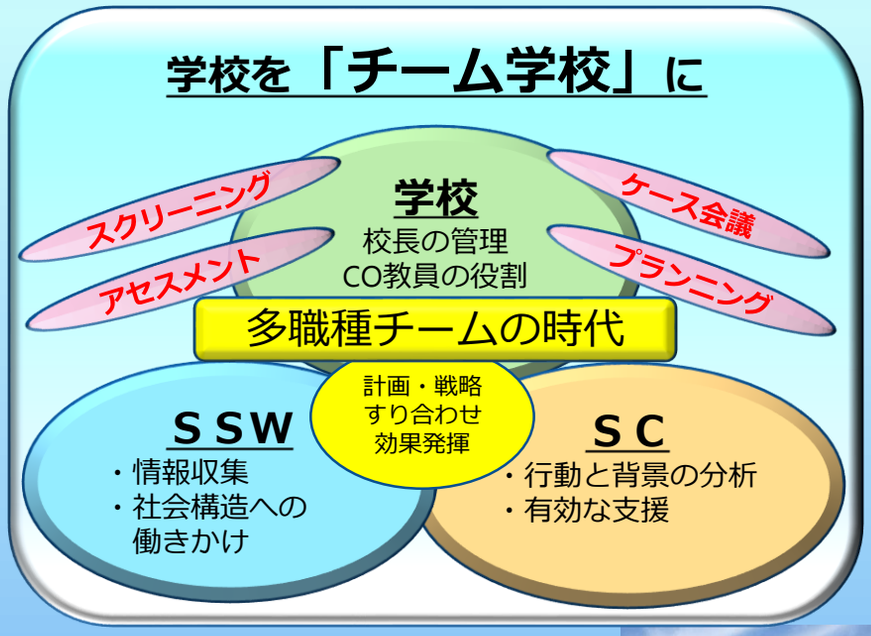
【不登校児童生徒の捉えと支援】

「今後の不適応への対応の在り方について」

・不登校の解決の目標は、児童生徒の将来的な自立
・「心の問題」だけでなく「進路の問題」
・連携ネットワークによる連携協力
（H15不登校問題の調査研究協力者会議）

「一人一人の多様な課題に対応した切れ目のない組織的な支援の推進」

①一人一人の　➡個別性の原理　集団教育との調整
②多様な課題に　➡心の課題だけでなく、多様な課題の理解
③対応した　➡児童生徒理解に基づいた支援「生徒指導提要」
④切れ目のない　➡学年・学校種をまたぎ、学校内外をつなぐ「教育支援センター」との連携
⑤組織的な支援　➡チーム支援　特にＳＣ　ＳＳＷとの連携
・不登校はどの児童生徒にも起こりうる
・学校等が関係機関等とのネットワークによる支援等を図る
・学校・家庭・社会が寄り添い共感的理解と受容の姿勢を持つ
（H28.7不登校児童生徒への支援に関する最終報告）



鳥取市ＳＳＷの紹介

参加者の感想

■背景を考え、多くの目で情報収集し整理することの大切さを再認識しました。また、不登校のリスクを低くするためにもスクリーニングは重要だと思いました。シートの活用を図っていきたいです。会議も限られた時間を有効活用できるように、SSWやSCにも参加してもらうよう進めていきたいです。
■自分の役割がよくわかった。自校の実態をもとに工夫してチームを構築し、未然防止に努めたい。

こいのぼり：鳥取市内袋川
（令和元年５月５日）